



第2巻  
第10号

平成24年6月15日

**JASWHS** 公益社団法人 日本医療社会福祉協会  
Japanese Association of Social Workers in Health Services

## 東日本大震災 MSW災害支援ニュース



群馬県沼田市のたんばらラベンダーパーク

### 目次

1. 災害対策本部からのお知らせ
2. 災害対策本部会議の報告
3. 現地支援活動報告①②
4. 現地・事務所感想文

## 災害対策本部からのお知らせ

### 協力員募集！！

引き続き協力員を募集しています。

<現地> 現地の業務状況を鑑み、当面は制限なく受け入れを行います。

中3日以上・なるべく平日の活動が理想的ですが、具体的な日程については、災害対策本部までお気軽にご相談ください。

特に、6月の最終週（6月24日～6月30日）は、1人も応募がありません。

<事務所> 平日のみの活動ですが、1～2ヶ月に1回でも構いません。

皆様のご協力をお願いいたします。

### 次回災害対策本部会議について

6月2日(土)の議事録を掲載しましたので、ご確認ください。

次回は7月21日(土)18:00～ 協会事務所にて開催します。

### 書籍販売のご案内

『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトン1』  
の販売を開始しました。

発災から9月30日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録をまとめました。ぜひご覧になってください。

尚、売上金の全額を皆様からの寄付として、本活動の資金に充てさせていただきます。



※ご注文は注文用紙で承ります。下記よりダウンロードしてください。

URL：[http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing\\_detail.php?@DB\\_ID@=45](http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=45)

## 現地・事務所職員募集！！

災害対策本部では現地・事務所職員を随時募集しています。  
災害支援に関心のある方からのご応募をお待ちしております。  
または周りでご興味のある方がいらっしゃいましたら、ぜひご紹介下さい

### (1) 現地常駐者（短期契約職員）

- ・就業場所：宮城県石巻市大街道北
- ・就業時間：9～17時
- ・休日：土曜・日曜・祝日・年末年始
- ・基本給 250,000 円/月 通勤費は実費支給
- ・社会保険加入
- ・医療ソーシャルワーカー業務経験必須
- ・長期の方優遇

### (2) 災害対策本部事務所担当（パート職員）

- ・就業場所：協会事務局内
- ・就業時間：週4日程度 10～17時
- ・休日：土曜・日曜・祝日・年末年始
- ・時給 900 円～ 通勤費は実費支給
- ・経験不問、医療ソーシャルワーカー業務経験者優遇

ご応募の方は下記宛に履歴書をお送り下さい。面接にて決定させていただきます。  
または災害対策本部までお気軽にお問い合わせ下さい。

〒162-0065 東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル

TEL：03-5366-1057 担当：笹岡・中川

## Facebook でも情報をお伝えしています！



現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。  
応援よろしく願いいたします。

-Facebook URL-

<http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>

## 第6回 災害対策本部会議

2012.6.2(土) 18:00~21:00

(敬称略・順不同)

**出席** 佐原・笹岡・武山・梅崎・山田(19:00~)・飯島(19:00~)・東(19:00~)・三輪

**欠席** 小淵・坪田・中川

### 1. 災害対策本部 事業全体について

#### (1) 人事

- 職員 現地 依光則子(今年度末まで正式雇用)  
久保木美由紀(7月~)  
中辻康博(5月末~9月末まで、宿泊別)

事務所 一原(6月から週1回、6/20で終了)  
三輪(6月から月・水・金)

- ・中里の業務開始時間は8時半。終了は6時半。(超過分は昼休憩などで調節)

#### ●協力員

##### 【現地協力員】

- ・現地の業務を鑑み、**6~8月は無制限に受け入れ**を行う。
- ・ただし、期間は原則として移動を含まず中3日以上。  
※初回参加者はリピーターとのペアでも必ず3日以上、リピーターなら2日でも可。

##### 【事務所協力員】 月~金 10~17時

- ・群馬県 尾方仁 1回/月 平日 6月から

#### (2) 研究組織について

#### ●前回会議であがった「検証委員会」について

- ・「バトンI」の次の「バトンII(10月1日~3月末)」のための検証委員会を開催する。
- ・方向性は本部会議で決定し、検証委員会では具体的な事を決定していく。
- ・検証委員会では、出来るだけ多くの人に集ってもらい、ディスカッションをする中で決定していく。

#### (3) 災害支援 SW 報告会

#### ●6/13(水) 18:00~20:00

亀田総合病院で、千葉県医療社会事業協会 南総地区勉強会として報告会を開催  
本部からの派遣として佐藤杏氏の希望あり、佐藤氏も承諾

●今後の開催地

※これまで県協会として参加のあった地域・・・北海道、石川、四国（愛媛・高知）、新潟

(4) ニッセイ財団助成金事業

●5/27(日) 災害ソーシャルワーク研修Ⅰ 反省点

・具体例の法的根拠や具体的な手順について聞けるとより良いものとなったのではないだろうか

●8/4(土) 災害ソーシャルワーク研修Ⅱ

時間：9時～

場所：聖路加国際病院

内容：(午前) 講義

- ・①DMAT 局長 小井土雄一先生
- ・②自衛隊の方
- ・③厚労省の方

→(宮内さんを予定。診療報酬等々の関連のある方。

福島放射能関連の被災者、その他、課題について、体験を話していただく予定。)

(午後) 演習→6月中に時間を取って演習の内容を考える必要あり。

17日(日)16:00～協会集合で演習の内容を考える。

●災害 SW の研修プログラム開発に向けて、その研究および研修開催方針について

(5) 日本ソーシャルワーク学会

●6/10PM 中間報告

●10月末 学会誌 原稿担当：梅崎(埼玉県立大学)

→梅崎が直接関わったケースについて限定し、原稿にする。

(6) IFSW 国際会議

●ポスター発表

(7) その他 財政面について

●ニッセイの申請について→6月15日提出。(担当：梅崎)

## 2. 事務所支援活動

### ●災害支援ニュースについて

6月より本部体制が月・水・金になったため、ニュース作成からホームページのアップまでの流れと発行間隔、作成後のチェック者について検討。

<今後の流れ>

①原稿が多いとき→金曜日：ホームページへの掲載

②原稿の少ないとき→水曜日：ホームページへの掲載

\*ニュースの発行間隔は現状の維持(協力員を増員するため)。

\*ニュース作成後のチェック者は、佐原・葛田・現地担当者。

### ●広報

①Facebook Follow数：24人(2/28現在)→44名(4/5現在)→56名(5/12現在)→59名(6/2現在)  
中辻さんに現地活動の報告をお願いした。

②書籍販売『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトン1』

6/2現在、約500冊は販売済み(寄贈含む)あるいは販売予定

・寄贈先のリスト作成。

## 3. 現地支援活動

<前回の課題 その後の進展>

1. 現地石巻医療圏MSWネットワーク

2. 在宅支援 生活・健康復興協議会 サポートセンター4棟に増 A棟宿泊可能に。

3. 仮設支援

<全体の進行>

市の意向に沿った活動

災害復興協議会 専修大から社協住所へ

・在宅支援を中心に置いて支援活動をしていく。

・ただし、仮設支援についても出来る範囲で支援していく。

・6月14日 現地石巻にてケースカンファレンス

## 4. 次回予定 ( 7月21日 [土] 18:00~ )

### ●8月以降の予定

8月4日 聖路加国際病院での研修後。

9月7日(金)19時~

## 現地支援活動報告①

児玉 照光（千葉県 亀田総合病院）

期間：5月30日～6月2日

約、半年振りに現地ボランティアに参加しました。

まず、目にしたのが以前と違い、駅前の通りや市役所1階にあるテナントがオープンし活気があったことに感激しました。また、協会が用意してくれた宿舎とは別に中里サポートセンターに事務所を置き、活動しやすい環境になっていました。

短い期間ですが仮設住宅の茶話会に参加したり、各ボランティア団体の中心として活動している仮設サロン支援連絡会議にも参加し、各団体の活動状況や仮設団地の現状の問題について聞くこともできました。そこでは支援が入るところと入らないところの差がよりはっきりしていることや、住民の自立支援を遅らせているのでは？と地元ボランティアの方の意見を聞くこともでき支援の難しさを感じました。

今後、2期調査実施にあたり調査後のフォローが必要な方が多数SWに依頼されることが予測され、引き続き継続的な支援が必要と思われます。是非、時間をつくって現地に行ってみることをお勧めします。

最後に現地担当者にはお世話になりました。ありがとうございました。

## 現地支援活動報告②

高橋 美里（千葉県 亀田総合病院）

期間：5月31日～6月2日

今回初めて石巻市へ行きました。市街地や駅前は、本当に津波が来たのかと思う程、復興が進んでおり、安定した生活を送れているのだろうと感じました。しかし、沿岸に向かうと、倒壊した建物があり、瓦礫は山積みの状態でした。恐らく1年前と変わらない風景なのだろうと思いました。また、仮設住宅は至る所に点在し、周囲にスーパーや病院がなく、自動車がないと不便な地区もありました。環境や住宅等の地区間での差がある事を目の当たりにしました。

私は、主に現地SWと仮設住宅や会議に同行しました。また調査員からケースの相談があり、現地SWと一緒に概要を確認しながら、介入の必要性やどのような資源が活用出来るか等を相談しました。ケースには、震災で家族構成・仕事に変化があり、家庭内で問題を抱えているケースや、震災前から問題を抱え、今回の調査で浮き彫りになったケースもありました。

この3日間を通して感じた事は、衣食住の支援から生活や家庭内の支援の必要性を強く感じました。そのため、病院での支援とは違い、地域に根ざした長期的な支援が必要なのではないかと感じました。今後もSWの視点や専門性を活かして行けたらと思います。

## 現地感想文

6月4日（月）

石巻は今、素晴らしい季節です。今年はまだ瓦礫からの被害は始まらず、山は新緑に輝き、小鳥も早朝からさえずっています。仮設も窓を開け、洗濯物も満艦飾。街中で新しい店がオープンし始め、観光客がグループで、にぎやかに見学に歩いています。少しずつ元気になっているこの頃です。今日の朝ミーティングでは「アスベスト」をテーマにレクチャーを行ないました。石巻かほく新聞に掲載された災害と呼吸器疾患の記事や防塵マスクの正しいつけ方のDVDのなども紹介。兵庫の患者さんからの、被災地の方々へのメッセージ、この苦しみを繰り返さないでとの訴えも紹介しました。

6月5日（火）

今日の昼食時、相席の奥様方（ご姉妹とお母様）から震災時の話を伺いました。

避難した中学校で、情報がなく孤立するなか、中学生や大学生・若い人達の活躍、避難3日目に看護師さんが来て咯血した90歳のお母様を自衛隊が日赤へ移動してくれたこと。入院も出来たのに周囲の若い患者にベットを空けようと決め、お母様と家へ戻ったこと。避難所で水を分け合った名も知らぬ方が、大みそかにお礼の挨拶にみえたこと…など。「震災に遭った人の数だけ、こんなドラマがあるのよねえ…。お仕事期待してます、よろしくね」と仰っていました。

6月6日（水）

人数がいることでたくさんの幅のある仕事が可能になっています。訪問もあり、たくさんのドラマがこの石巻でも、私たちMSWが加わって生まれています。山はますます緑が美しくなっていく宮城の6月です。

6月7日（木）

2期フォローの緊急依頼が来はじめました。1期よりもSWへの振り分け基準を厳しくしているためか、より困難ケースが目立つ印象もあります。しかし今日は参加中の協力員の方々が、現場での経験を生かし適切にスピーディに対応。目の覚める思いでした。

6月8日（金）

昨年4月のローラー作戦にも参加された協力員の香島さんが双葉町での訪問面接の際、ローラー作戦で伺ったお宅の周囲を少し回ってみたそうです。いくつかのお宅は既に更地で何もなかったそうです。

湊の巨大鯨缶は一旦保存が決まっていたのですが、今月中の撤去が決定しました。どこか（勝手に）寂しい気分もよぎりつつ…どちらも、復興のしるしです。

## 事務所感想文

6月6日（水）

尾方（西群馬病院）

本日三輪さんとご一緒させて頂きました。また新しい業務を教えて頂き感謝です。本部の業務量の多さに驚きです。早く覚えるように頑張ります。

三輪（事務所担当者）

今日は尾方さんに来て頂き、とても心強く感じました。事務所のお仕事は1人では迷うことが多いので本当に助かります。

6月7日（木）

原（北品川病院）

前回、一原さんに指示して頂いて避難所のマッピングなどをしましたが、今回初めて1人で事務所において災害対策本部を探検するようにマニュアル・PCとにらめっこしながら過ごしました。電話等もなく、慣れた方なら30分で終わる内容だった気がします…。